<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Title</td>
<td>スペイン地中海島嶼の伝統的農村における最近の変化 伊ビサ島サン・マテオ教区を事例として</td>
</tr>
<tr>
<td>Author(s)</td>
<td>栗原 尚子</td>
</tr>
<tr>
<td>Citation</td>
<td>一橋論叢 80(6): 795-818</td>
</tr>
<tr>
<td>Issue Date</td>
<td>1978-12-01</td>
</tr>
<tr>
<td>Type</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
<tr>
<td>Text Version</td>
<td>publisher</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/13246">http://doi.org/10.15057/13246</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
スペイン地中海島嶼の伝統的農村における最近の変化

はじめに

近年のスペイン地中海地域では、最も注目すべき現象は、観光業の急速な発達とそれに伴う観光地域の開発である。パレアレス諸島の一島嶼イピサ島もその例外ではない。イピサ島における観光業の発達は、他の地域におけるのと同様に、スペインが国際社会に復帰した一九五○年代の初めから始まる。しかし、イピサ島の経済にとって観光業が決定的に重要性を持つに到るのは、一九六○年代にさかのぼる。これまでに、このようなイピサ島における観光業の発達過程を分析した研究は、すでに若干発表されている。これらの研究を基にして、観光開発を積極的に推進している近来アンドアルシア地方をはじめとするイピサ島以外の地域からも興味深い人口流入、その結果としての急速な人口増加の問題が観光業をも含み、ますます観光業をめぐる経済活動の変化を乱開発により農地の払食などを、主な影響としている。
実態調査の一部である。

第一節　サン・マテオにおける

生活空間と居住形態

サン・マテオ教会での観光開発のため、観光開発の影響が現れていない純農村においてこれが、むしろ、イピサ島でられた経済不況の不況においては、豊かな農村が伊達な経済不況の影響を受けていないと断言できない。

現在進行している観光開発の本質、観光開発の波及効果と地域開発の問題等が明確に把握できるのはないが、様々な視点から、イピサ島の中でも最も後進的な農村であるサン・アントニオのサン・マテオ教区を調査の対象地域としてとりあげた。本稿の目的は、サン・マテオ教区の伝統的な農業の重要性と居住形態探しが、地理的にも地域的にも伝統的な農業地域が、この地域の主要な生産基盤である農業の中心的な活動の場である。山麓に点在する農家の白い壁と緑の山地の対象が美しい農業である。

日常的な生活空間

サン・マテオ教区は、行政的にはサン・アントニオのムニシピオに属している。イピサ島におけるムニシピオの行政領域は、それぞれ前段のムニシピオが宛てられた際、ムニシピオの行政領域が問題にされるとき、しばしば発言されるのは、二十六年のレコンキスタ後の封土として分割される

十二月まで約二月にわたって実施されたイピサ島の
図1 イビサ島の行政領域と教区領域

ムニシピオ行政境界
ーーー教区境界
① Ibiza
② San Antoni Abat
③ San Joan
④ San Juan Bautista
⑤ Santa Eulalia

現在でも、ムニシピオの中心であるサン・アンティの町に行けば、まずイビサ市を経由しなければならず。片道一時間以上を要する。したがって日常的な買物をしばしばするなら、サン・ミゲルやイビサ市とのつながりの方が大きい。

このサン・ミゲル教区だけでなく、イビサ島ではムニシピオに対する帰属意識は弱い。イビサ人としてのムニシピオに対する帰属意識は強い。ムニシピオに属するイビサ市民は、対モロカあるいはメノルカに対抗し、ムニシピオに属するサン・アンティ市民は、対フア級・サン・アンティ市民は、対フア級、サン・アンティに属するサン・アンティ市民は、対フア級、サン・アンティに属するサン・アンティ市民は、対フア級、サン・アンティに属するサン・アンティ市民は、対フア級。
しばしば示されるが、その次には、出身の教区が自己の地域への帰属をイディンティファイする単位である。日常のレベルでの生活空間が教区を単位としていることの一例であり、また教会を中心とした生活が、すなわちカトリック教が生活で重要な役割を果たしてきたことが反映でもある。後に述べるように、分散居住が卓越しているイビサ島の農村で、教会が行われる様式や守護聖人の祭礼が、農民を社会的に結びつける要因であった。

現在、サン・マテオの教区は、さらに、Casas Altas、Arteba, Sá Noguer, Miguel Cinga, Benimano, Es Castell, Es Castell, Es Calòなど7つのヴァンダ単位に分割される（図5参照）。このヴァンダの領域が生活の最も基礎的な単位といえる。実質的には、宗教的、行政的な必要性から管理・統治の単位として機能してきた側面がみられる。ヴァンダは、共同放牧地として重要な山林は初めからすべて個人所有に分割されており、共同の農作業を行うような組織も歴史的に存在していなかったが、町の居住形態を示す重要な特徴である。

イビサ島の居住形態は、マヨルカ、メノルカの他の島と比較してもじょうに特徴的なのは、分散居住の卓越性を示す重要な特徴である。一九七零年に、各ムニシピオにおける人口の分散率は、イビサ市五・五％、サン・アンツィオ三・九％、サルデダニオ九九・九％、サン・ジョアン・デ・アヴィス九六・九％、サン・エウラリア九一・一％となり、
(69) スペイン地中海沿岸の伝統的農村における最近の変化

現在もなおイビサ島以外の分散人口が分布している、分散的な居住の卓越性を証明している。このような分散的な居住を形成した原因については、水の確保、生活の安定、生産の効率化などの要因が列举されるが、それらはどのような町構造のものかで、居住がどの程度まで分布しているかが問題になる。現在の段階では、その点は未解決である。

サン・マテオも同様に明らかのように、居住地は分散している。ここで、農民の歴史的過程を示す資料が存在しないが、分散型の居住地の起源は、非常に古いか、最近の文献によると、サッチャーの十八世紀には、アウトバールカのポリスに居住地が存在しないことから、農業技術の伝播による。アウトバールカの開拓は、排水が困難な地域であるマラリナの開拓とは、山麓地からの居住地が移転しなかったのは、肥沃な耕地を最大限利用するためにと説明されている。山の底流の傾斜など農業の生産活動との関連をもとめる見解が必要である。

サン・マテオだけではなく、イビサ島の農村で興味深いのは、地名、植物、動物、地形、職業など様々な面で、サッチャーの解釈は、その面で表われている。一つの山名の名前は、十八世紀に、一八五〇年までの研究者で、シエラの（カスティーリャ語のCasa）と呼ばれるか、マラリナの開拓と関係をもっている。
第十二章
サン・マドレの住民の名前をみてみる

サン・マドレの住民の名前には、アングル、シュア、ジュアン、マリア、マリガリタなど、さまざまな名が重複している。他方、家族名は、ボネット、ブフィ、カスタバル、ガルス、ブラット、タム、ミル、サバール、ジェスター、マリア、マラガリタを通り抜け、各小集団に分かれて居住している。したがって個人のフルネームは前記の洗礼名と名前の組み合わせになり、住民による区別が必要である。

アングルの耕地の所有状況をみるために、パレス県の地籍図を利用した。アングルの地域は、各地区、ポルシェ、別に、各地片、パレーヌ、ごとの保有者名、面積、土地利用の種類、敷地、権利等を記載している。利用にあたって問題となるのは、保所有者名が必ずしも所有者を指しているわけではなく、したがってその地籍とその所有者の関係を正確に示していないことである。しかし、サン・マドレではすべて自作農で生産されている。
（71）スペイン地中海島嶼の伝統的農村における最近の変化

したがって、サン・アントニオのミシシッピレールでの土地所有状況をみると、ひとり所長の目的にかえる一九七二年の農業センサスの結果が一部公刊されており、農地の所有状況を知ることができ、サン・アントニオにおける農業の過程でパルマの都市住民にとってかなりの農地の集積が進んだマイノルカの都市化と比較すると、小土地所有による自作地であり、農地の経済全体の後進性を反映しているといえる。このような土地所有形態は、マイノルカ全体の一般的な傾向である。大土地所有が現在でも卓越している事実を反映しているとされる。

（2）土地利用

当地台帳にて各地片ごとの土地利用種目とその面積が記載されているところを先に述べた。が実際には観察されない土地利用の実態とはかなり異なっている。地方台帳ではイチキックの面積が正確に計られているが、実際に観察された面積は似たようなものである。また農地の面積は各地片において示す土地利用を示したものである。また農地の面積において示す土地利用を示したものである。各地片において示す土地利用を示したものである。
図2 土地利用図
——アウバルカ、サン・マテオ教区（イビサ島）——
(1977年11月 栗原原図)
スペイン地中海沿の伝統的農村における最近の変化

図3 土地地籍図
——アウパルカ、サン・マテオ教区（イビサ島）——

(注) Delegación Provincial de Ministerio de Hacienda
の地籍図より作成。農家の土地所有状況を示す例
としてA、B、Cの農家が所有する分割地を図示し
た。アウパルカの南部は居住地の周辺に農地を主
となって所有しているが、北部は、周辺の山地に居
住地。アウパルカ中心地に耕地を所有している傾
向がある。またはこれも農家は、小分割
地化された山地と耕地を所有している。一つは
実際の観察される地域、すなわち土石をつみあげ
られた段状の耕作地を示している。
パレアレス諸島、とくにマヨルカ島とイビサ島の農業の発展において重要な役割を果たしたのは、マヨルカ島で、新しい商品作物として重要なもののはアルガリョバとアーモンドである。

ノルカ島を構成する要因として、マヨルカ島の現象収入の重要部分を構成しているのは、イギリス占領下の小農の改革への努力である。アルガリョバは、かつてのオリーブの栽培地において、アーモンドは西部の新開地に拡大し、農業団体 "La Sociètè de Ameiga del Pala" (S.A.E.P.) による経済発展の政策を模倣した。
スペイン地中海沿岸の伝統的農村における最近の変化

アーモンド、イチジク、オリーブとも、イチジクはアーモンド、オリーブがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、アルガリョは三〇haから一〇〇ha、アーモンドをもとに栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対して、五〇〇haとわずかな栽培面積を増加させたのに対し、アーモンドがこの約1千年の間、三〇〇haから四〇〇ha、オリーブはアーモンドに対
表1 農業カレンダー（サン・マテオ教区）

<table>
<thead>
<tr>
<th>9</th>
<th>10</th>
<th>11</th>
<th>12</th>
<th>1</th>
<th>2</th>
<th>3</th>
<th>4</th>
<th>5</th>
<th>6</th>
<th>7</th>
<th>8</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>茎起</td>
<td>春播種</td>
<td>休閑地</td>
<td>除草</td>
<td>除草</td>
<td>休閑地</td>
<td>脱穀</td>
<td>茎起</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>休閑地準備</td>
<td>茎起</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>揀種</td>
<td>除草</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>大麦，カラス麦</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ソラマメ，エンドウ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(小麦)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>収穫</td>
<td>移植</td>
<td>肥料</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(ブドウ)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>収穫</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>剪定</td>
<td>剪定</td>
<td>剪定</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(アルガリ全バ)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

ジャガイモの栽培、アーティチョッキなどの特殊野菜の栽培あるいは牧草栽

近年の農業の発展からはとり残され、自然の経済の維持に

水の不足によって一部形成されているといえよう。

この地域の農業生産活動の実態を述べてみよう。表1は、

南・マテオにおける農業生産形態の後進性は、農業用

5月で、年間で最高の農業期である。

アルガリの広

家消費のための蔬菜が夏期に栽培されるにすぎない。

イビサ島における近年の農業の大きな変化は、耕地の灌

の拡大である。電動ポンプだけでなくスプリンクラ

水を利用してある。農家が増加している。このようなウェ

ルタの拡大によって、輸出用の農業が進展している。観光業の発達の結果

として都市的近郊農業の展開といえよう。しかし、サ
（77）スペイン地中海地域の伝統的農村における最近の変化

マドリード州の降水の変化は、農業生産に大きな影響を及ぼします。この地域では、降水の変化が、農業生産の変化を引き起こす可能性があります。降水の変化が、農業生産に大きく影響する理由は、降水が、農作物の成長に必要な水分を供給するからです。降水が不足すると、農作物の成長が阻害され、農業生産が減少する可能性があります。さらに、降水が過剰になると、土壌の肥沃性が低下し、農作物の成長が阻害される可能性があります。このため、降水の変化は、農業生産に大きな影響を及ぼす可能性があります。
一橋論叢 第八十巻 第六号 (78)

帰国従業者をみると、①基幹の農業従業者に占めるものは、南三河、四日市、家事労働者であるが、一九六〇年には、①が六二人、②が二百二人、③が一〇〇人であったという。

従業者の減少と休農の道院は注目すべきことであるが、後の人口構成の変化を詳しくすると、四〇歳代および五〇歳代が全体の五〇％を超える。光緑連産業従業者、三〇歳代以下の男性で一九六〇年に比較すると、五年間は約九〇％の増加と内容の多様化が進んでいる。

ニッポンの観光業の発展は、関連産業の発展と雇用の機会の増大をもたらし、島外からも人口を吸収している。
図4 サン・マテオ教区（イビサ島）におけるヴァンダと農民の居住状況図（1977年11月 栗原原図）
二年間が相互関連の下に進化したことを示している。このような農村からの急速な人口減少は、第一節を通じて進行したのであろうか。

一九五○年から一九五五年にかけての世帯数と家族数（一
つの世帯のものと統合された複合家族の三や四つを含む）
も上がっている。一九五五年にかけての世帯数は六人数
の増加をみた。一九五六年の世帯数は四一・五％から四
二・九％へ、家族数は二一・七％から二三・二％へ増加
した。これより一九五五年にかけての世帯数と家族数
の増加は、世帯構成単位数の増加が世帯構成単位数の増加
に伴う家族数の増加が主因であると考えられる。

一九五五年から一九五六年にかけての世帯数と家族数
の増加は、世帯構成単位数の増加が世帯構成単位数の増加
に伴う家族数の増加が主因であると考えられる。

一九五五年から一九五六年にかけての世帯数と家族数
の増加は、世帯構成単位数の増加が世帯構成単位数の増加
に伴う家族数の増加が主因であると考えられる。

一九五五年から一九五六年にかけての世帯数と家族数
の増加は、世帯構成単位数の増加が世帯構成単位数の増加
に伴う家族数の増加が主因であると考えられる。

一九五五年から一九五六年にかけての世帯数と家族数
の増加は、世帯構成単位数の増加が世帯構成単位数の増加
に伴う家族数の増加が主因であると考えられる。

一九五五年から一九五六年にかけての世帯数と家族数
の増加は、世帯構成単位数の増加が世帯構成単位数の増加
に伴う家族数の増加が主因であると考えられる。

一九五五年から一九五六年にかけての世帯数と家族数
の増加は、世帯構成単位数の増加が世帯構成単位数の増加
に伴う家族数の増加が主因であると考えられる。
スペイン地中海島における伝統的農村における最近の変化

図5-1 サン・マテオ教区の人口推移（1786—1975）

資料：1786—1876 注（10）
1900—40 注（11）
1950—75 注（25）

第二に、一九五〇年には、住民七人、女子三人、
一九五〇年には、住民一一人、女子三人、一九七〇年には
は、住民七人が、住民台帳に記載されている。一九
六〇年の住民台帳には、流出先は、リマ・イビサ（四人）
を参照する。流出先は、リマ・エゥラリア、サンタ・エゥラリア
サンタ・エゥラリア以外は、いずれもラテンアメリカの
都市に流れていている。しかし、ラテンアメリカの都市
へ流出している人口は、「一九六〇年現在高齢層である
移住を裏付けている。

第三に、夫婦、夫あるいは妻のいずれかが死亡、独身

811
図5-2 サン・マテオ教区年齢階層別人口ピラミッド

資料：1806年 注(10)
1950年，1975年 注(21)

年齢階層別の人口ピラミッドを示す。1806年と20世紀にかけての人口構造を比較している。

1806年

男子

女子

1950年

男子

女子

1975年

男子

女子

この図は、サン・マテオ教区の年齢階段別の人口ピラミッドを示しています。1806年を基調として、1950年と1975年の人口構造を比較しています。特に1975年のピラミッドは、年齢層の変化が顕著に見受けられます。
スペイン地中海風の伝統的農村における変化

地域の労働者層の住宅不足と関連で問題となっている点である。さらに地中海地域の観光開発が直接的である。調査の結果、観光地の在来的な観光地である。サン・マテオの観光地は、この二〇数年前の伝統的な農村が存続している住民が証明されている。

サン・マテオにおける人口減少の数少ない小規模の閉鎖（図四）の成績があげられている。サン・マテオの在来的な農村は、この伝統的な農村の実態を示すものとして興味深いものである。
このページのテキストは日本語です。
（85）スペイン地中海沿岸の伝統的農村における最近の変化

調査期間中、イビサ島を撮影した出来事のひとつは、観光開発と自然保護をめぐる大規模な住民運動の発展である。イビサ島のシンボルである塩田地帯の観光開発計画への反対が、数々の示威活動を引き起こした。現在、イビサ島の観光業の発展と自然保護の立場からの対立がしばしば提起される。このように大きな変化は、一九七三年以降のスペインの流動的な社会変化のあらわれでもある。


（3）Jorge Domínguez, Las Iglesias de Ibiza, Amigos de Ibiza, P. 79.

（4）José Serrano, El Turismo en Islas, y Formentera, Balansat, 1974.

従来、イビサ島はPía de Vila de la Conca de Santa Eulalia, o del Ros, 1974, P. 811-817.


C. I. N. de Palma de Mallorca, No. 630, 1961, P. 48-54.

815
San Martín, año 1786, 1787, 1796, 1820, 1826, 1828.

Los patrones de los materiales de obra utilizados en la construcción del edificio fueron:

- Argila
- Arena
- Piedra
- Canto Molido
- Ladrillo

Detalles:

1. Fondo de la base: arena y cemento.
2. Embutidor: cemento y piedra.
4. Techo: techumbre y madera.

Incorporación de técnicas tradicionales en la construcción:

- Uso de técnicas de fundición para la producción de materiales.
- Integración de elementos locales en la decoración.
- Utilización de materiales sostenibles.

Referencias:


Bibliografía:


Notas:

1. Importancia de la conservación.
2. Necesidad de estudios arqueológicos.

Galería de imágenes:

- Imágenes de la base y el interior del edificio.
- Fotos de las técnicas utilizadas.

Gráficos:

- Grafico de ubicación.
- Diagrama de los materiales utilizados.

Tablas:

- Tabla de materiales:
<table>
<thead>
<tr>
<th>Material</th>
<th>Cantidad</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Arena</td>
<td>300 kg</td>
</tr>
<tr>
<td>Piedra</td>
<td>200 kg</td>
</tr>
<tr>
<td>Canto Molido</td>
<td>150 kg</td>
</tr>
<tr>
<td>Ladrillo</td>
<td>250 kg</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Obra:

- San Martín, 1786, 1787, 1796, 1820, 1826, 1828.
ルーキドラマ系のイピサ語が日常的に使用されているが、サンマテオでは、カステリヤ語は一種の外国語のように意識されている。ところ、サンマテオでは高齢の女性には、文言が高く、しかもカステリヤ語を全く話さない場合が多い。フランス体制下、教育も教会においてミサもカステリヤ語に統制化されたことに対し、現在のカルバヤ地方におけるひとつの地域主義の支えとしての共有の力しかし、本稿の文言は筆者にある。調査に際し、寄り添いの協力をして下さったアントニオ・コスタ神父、イピサ島の農業について御教示下さったジョアン・カルベレ農業技師、また住民会帳の閲覧等に便宜を図って下さったサンマテオの役場の皆様の御協力に心から感謝いたします。またイピサ調査に関しては、既に発表された形で提示したバレンティ教授、バレンテロ・アレジャの校長、イピサ中等学校教員のガリア・アレジャ氏に、本稿にかえて御礼申し上げます。